

# 学校いじめ防止基本方針

平成27年4月  
菰野町立八風中学校

## はじめに

本校では、「いじめの防止」等を推進するため、今まで学校が取り組んできていることや今後大切にしていける取組みについてまとめるとともに、「重大事態」等に対処するために、「学校いじめ防止基本方針」を策定しました。

併せて、「いじめが起こった場合のフロー図」も示しました。

### いじめの定義（法第2条）

いじめとは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいう。

個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要である。

## 第1章 学校におけるいじめ防止等に関する取組について

### 1 いじめの防止

生徒が、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行っています。

併せて、集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、お互いを認め合える人間関係・学校風土をつくっています。

（1） 「授業づくり」においては、

「学びの共同体」の理念に基づく授業づくり

すべての生徒の学ぶ権利を保障する授業、教科の本質に根ざした学びを追求した質の高い授業、生徒同士が「聴き合い学び合いつながりあう」授業を行うことにより、仲間とともに学び合い、支え合って生きる生徒を育成しています。

（2） 「集団づくり」においては、

基本的な生活習慣・規律ある生活の確立

気持ち良いあいさつ、正しい言葉遣い、社会規範や集団生活のルールの指導、学校をきれいにする取組等を通して、社会のルールを守り、学校のきまりや学習規律を守ることのできる規範意識の共通認識を図っています。

「心の教育」の充実

人権教育・道徳教育を充実し、学級や学校をすべての生徒が安心・安全に生活できる場所にします。また、日々の授業や行事等において、いじめを許さない土壌づくりとともに、一人ひとりの「よさ」を認め合える教育を推進します。

また、生徒の主体的な活動を重要な取組みとして位置づけ、生徒会が中心となって、いじめのない学校づくりを推進します。

## 2 いじめ防止啓発

- (1) いじめに関するリーフレット「いっしょに考えよういじめ問題(保護者編)かけがえのない子どもたちのために」(各種相談機関一覧掲載)を保護者に配付し、学校とともにいじめ問題について考える機会とします。
- (2) 国立教育政策研究所作成「いじめのない学校づくり」「いじめと向き合う」「いじめと暴力」「いじめ追跡調査 2010 - 2012 いじめについて、正しく知り、正しく考え、正しく行動する」「学校と警察等との連携」を有効活用し、いじめについての共通理解を図るとともに、教職員自身のいじめに対する人権意識を見直すための研修会を実施しています。
- (3) 生徒会の啓発活動の一環として、又は美術科の授業の道徳的な教材として、「いじめ防止啓発ポスター」等を作成するなど、全校で意識の高揚を図ります。
- (4) 各種相談機関を周知します。
  - 三重県総合教育センター相談電話(059-226-3729)
  - こどもほっとダイヤル(0800-200-2555)
  - 子どもの人権110番(0120-007-110)
  - 「被害少年の悩み、問題行動等(059-354-7867)(北勢少年サポートセンター)
  - 「児童虐待、不登校、養育等(059-347-2030)」(北勢児童相談所)
  - 文部科学省24時間いじめ相談ダイヤル(0570-0-78310)(全国共通ダイヤル)

## 3 いじめの早期発見

いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることが多いため、些細な兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの的確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知しています。

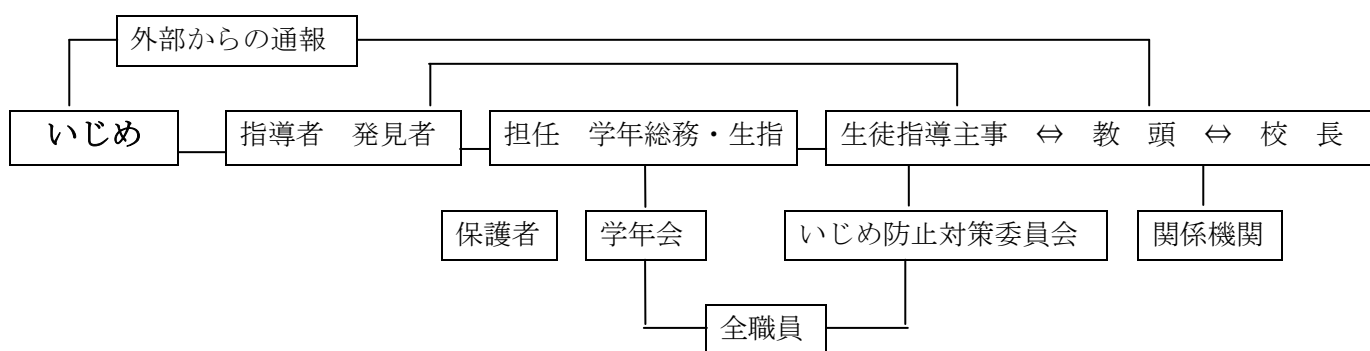
- (1) 日常的な取組み
  - 学校が、「いじめを絶対に許さない」という姿勢を集会や学校だよりなどで周知し、いじめを受けた場合や嫌なことがあった場合に、すぐに担任や学校へ連絡するように指導をしています。
  - 教職員による日常的な生徒との対話や観察、連絡帳等による生徒の変化やサインに気づくための指導をしています。
  - いじめ等問題行動の発生しにくい、信頼で結ばれた人間関係のある学級・学年経営をしています。
  - 管理職や教職員が校内を巡回して安全対策を行っています。
- (2) 生徒に、「いじめ調査」を年間3回(每学期)実施し、いじめの状況を把握しています。
- (3) 生徒に、「学級満足度調査(Q-U調査)」を年2回実施し、一人ひとりの状況及び学級の状況を把握しています。また、教職員のQ-U研修会を年2回実施し、分析力や学級経営力の向上を図っています。
- (4) 教育相談を実施しています。
  - 「いじめ調査」「学級満足度調査(Q-U調査)」を基にして、教職員が生徒一

人ひとりに対して面談による教育相談を毎学期実施し、生徒の不安や心配事等の心の状況を把握しています。

- (5) スクールカウンセラ - (臨床心理士等)とともに、被害生徒の心のケアを最優先に行います。また、必要に応じて、加害生徒のケアも行います。
- (6) 緊急な被害生徒の心のケアに対しては、臨床心理士の派遣を教育委員会に依頼します。
- (7) インターネットやスマートフォン等を使ったネットいじめ対策をします。  
発達段階に応じて、ネットいじめ防止について指導します。  
教職員が「ネットモラル」の研修会に積極的に参加します。  
「インターネットやスマートフォン等の安全な使い方」等の保護者向けちらしを配布します。

#### 4 いじめ事案に対する対応

- (1) いじめを発見、通報を受けた場合は、一部の教職員で抱え込まず、速やかに「学校いじめ防止対策委員会」に報告します。
- (2) 被害生徒を全面的に支え、守る姿勢で対応します。
- (3) 被害生徒からの聞き取り及び保護者への報告を行い、保護者とともに解決を図ります。
- (4) 加害生徒からの聞き取り及び保護者への報告を行い、相手への謝罪を含め保護者とともに解決を図ります。
- (5) 周囲の生徒からの聞き取りとともに、観衆的・傍観的立場に立つことが、いじめの助長につながることにについて、学級、学年、学校全体に指導します。
- (6) 教育委員会に第1報をいれるとともに、対応策について継続的に指導・助言を受けます。
- (7) 犯罪行為として扱う必要のある事案については、早期に警察に相談し、連携して対応します。
- (8) いじめが起こった場合のフロー図



## 第2章 いじめ防止のための校内組織

### 1 校内組織

- (1) 「学校いじめ防止対策委員会」を設置します。  
構成員は、管理職、学年主任、生徒指導主事、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーです。なお、必要に応じて、PTA会長、副会長や学校評議員、学校運営協議会代表に委員会への参加を依頼します。

いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、把握したいじめ事案について、「事実確認」「指導方針」「具体的な取組み」により、早期に解決を図ります。

いじめの事実を明確にするための調査等を実施し、集約及び整理をして、生徒及び保護者、教育委員会に報告します。

解決を図るために、教育委員会に継続的に報告をするとともに、指導・助言を受けます。

(2) 「生徒指導委員会」を行っています。

構成員は、管理職、生徒指導主任、各学年生徒指導担当、養護教諭、スクール相談ネットワーク、生徒指導推進協力員、県生徒指導特別指導員等です。

週1回(火曜日の第2限) 学校等で発生する様々な問題行動等について情報交換するとともに、対応策や指導方法について協議しています。

毎回の事項書の中に「いじめ」の項目を入れ、確認、情報交換をしています。

## 2 学校関係者及び各種団体との連携

学校は、平素から学校関係者及び地域の様々な方や団体と連携してきています。

(1) P T A及び学校評議員、学校運営協議会と協働しています。

(2) 事案により、保育園、幼稚園、小学校、他の中学校と連携し、情報共有を行っています。

(3) 主任児童委員、民生委員・児童委員、青少年育成町民会議、社会福祉協議会、区長会等と連携しています。

(4) 学校自己評価及び学校関係者評価において、いじめに係る検証を行います。

## 第3章 保護者と生徒の役割

### 1 保護者として

保護者として、いじめに対する基本認識について共通理解し、学校と協力して、いじめをしない、させないしつけをお願いします。

教育基本法(第10条)にあるように、保護者は、子の教育について第一義的責任を有していることから、生活に必要な習慣を身につけさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図ることが務めです。

(1) どの生徒も、いじめの加害者にも被害者にもなりうることを意識し、いじめに加担しないよう指導に努め、また、日頃からいじめ被害など悩みがあった場合は、周囲の大人に相談するよう働きかけてください。

(2) 生徒のいじめを防止するために、学校や地域の人々など生徒を見守っている大人との情報交換に努めるとともに、根絶を目指し互いに補完しあいながら協働して取り組んでください。

(3) いじめを発見し、または、いじめのおそれがあると思われるときは、速やかに学校や関係機関等に相談または通報してください。

### 2 生徒として

(1) 一人ひとりが、自己の夢を達成するため、何事にも精一杯取り組むとともに、他者に対しては思いやりの心もち、自らが主体的にいじめのない学校づくりに努めてください。

- ( 2 ) 周囲にいじめがあると思われるときは、当該の生徒に声をかけることや、周囲の人に積極的に相談することなどに努めてください。

## 第4章 関係機関との連携

### 1 警察との連携

学校は、学校警察連絡制度（平成16年4月協定締結）により、警察と連携して問題の解決を図ってきています。

- ( 1 ) 四日市西警察署（生活安全課）
- ( 2 ) 北勢少年サポートセンター
- ( 3 ) 朝上駐在所

### 2 他の関係機関との連携

学校は、事案に応じて、様々な関係機関と連携して適切な解決を図ってきています。

- ( 1 ) 北勢児童相談所
- ( 2 ) 津地方法務局四日市支局及び三重郡人権擁護委員協議会

## 第5章 重大事態発生時の対処

### 1 重大事態の意味（いじめ防止対策推進法第28条）

学校は、下記の重大事態が発生した場合には、直ちに教育委員会に報告するとともに、調査を実施します。また、当該の生徒及びその保護者に対し、調査に係る事実関係等の必要な情報を適切に提供します。

- ( 1 ) いじめにより当該学校に在籍する生徒等の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
  - 生徒が自殺を企図した場合
  - 身体に重大な障害を負った場合
  - 金品等に重大な被害を被った場合
  - 精神性の疾患を発症した場合 等を想定しています。
- ( 2 ) いじめにより当該学校に在籍する生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。